

## 1. 研究論文とは何か<sup>2</sup>

研究論文（あるいは、学術論文）とは、「それぞれの学問分野で専門の研究者によって書かれるもので、その著者が自分の研究で得た結果を報告し、自分の意見として述べたものであり、それによってその学問分野に新知見をもたらすものである」と言われている。研究論文では、結論を明示すると同時に、その結論に至る研究手続きや論理的な道筋を明確にすることが大切である。それゆえ、以下の点は特に理解しておくことが重要である。

- (1) 「1冊の書物や、1篇の論文を要約したものは研究論文でない」
- (2) 「他人の説を無批判に繰り返しただけのものは研究論文でない」
- (3) 「引用してこれらを並べただけでは研究論文にならない」
- (4) 「証拠立てられない私見だけでは研究論文とならない」
- (5) 「他人の業績を無断で使ったものは剽窃であって、研究論文でない」  
(たとえば、Web サイトから無断でカット・アンド・ペーストをするなど)

## 2. 文章作成・表現の技術

### (1) 表現スタイル等

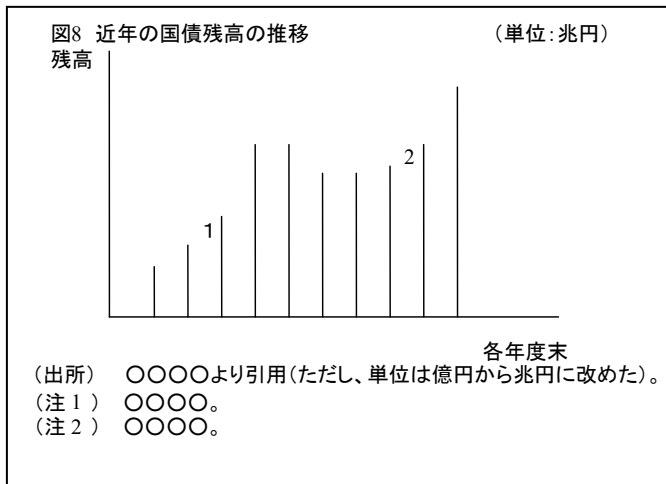
- ① 本文を順に章・節・項などに分けて整理し、全体の議論を体系的に組み立てる。
- ② 自分の説と他人の説を区別し、他人の文章の直接的引用は「」で明示する。他人の説を要約し、それに依拠する場合は、その旨を注記する。
- ③ 用語・文体を統一する（「である」調を用い、「です・ます」調や口語体は避ける）。
- ④ 略語をみだりに使わない（R. 4ではなく、令和4年とする）。
- ⑤ 本文中で用いる数字は、原則的にアラビア数字で統一する。
- ⑥ ?や!などの記号は用いない。引用文にある場合や英語論文では使用可能。
- ⑦ 外国語の略記には、ピリオドやハイフンを用いない（I. M. F. ⇒ IMF、L. D. C. ⇒ LDC、O. E. C. D. ⇒ OECD など）。アルファベットおよび数字は半角表示とする。
- ⑧ 外国人名は次のように記す（例示）。  
A. マーシャル (Marshall, Alfred)——二度目からは、「マーシャル」でよい。  
ミルトン・フリードマン (Friedman, Milton)  
ジェームズ・トービン (James Tobin) など
- ⑨ Web サイトからの引用は、そのアドレスおよびそれを参照した日を明示する。

### (2) 図・表の書き方

- ① 本来、文字で組むことができるものが「表」、原図を描いて印刷したものが「図」である。
- ② 本文中の図・表には通し番号を付ける。ただし、通し番号は、各章単位のものでもかまわない（たとえば、第5章の図ならば、図5-3のように記す）。
- ③ 図・表には、内容を的確に表すタイトルを番号の後ろに付ける。
- ④ 引用した図・表には、出所・出典・資料の源を明示する。原図を修正して引用した場合には、その旨を注記し、末尾は句点（。）で閉じる。
- ⑤ 図・表に関わる注は、図・表の下部に記し、末尾は句点（。）で閉じる。

<sup>1</sup> 論文を英語で書く場合には、『GUIDE FOR MA THESES IN ENGLISH』を参照のこと。

<sup>2</sup> 斉藤孝『学術論文の技法 新訂版』日本エディタースクール出版部、2005年を参照のこと。



### (3) 注の付け方

① 注とは、論文の結論に至る研究の手続きを明記する形式である。

② 二つのタイプの注

A) 引用・要約の出所の注——自分の論文中に他人の文章を直接的に、あるいは間接的に引用し、自分の見解と他人の見解との区別をはっきりさせるための注。

(i) 直接的引用の場合には、引用文を「 」で示し、注番号を付ける。

(ii) 要約の場合には、要約した文章の末尾に注番号を付ける。

B) 説明のための注——本文に書き込むと煩雑になり議論の本筋がわかりにくくなる  
 とき、それ自体は文脈において二義的重要性しかないがぜひ言及しておく必要が  
 あると考えるとき、また通常とは異なる意味で用語を用いるときの注。

③ 注番号の付け方

横書きの場合、文章の右肩に注の番号を付ける。

例： (i) 「……………」<sup>3)</sup> □□□□。  
 (ii) □□□□□□□□□□□□<sup>3)</sup>。

### (4) 引用文献・参考文献の示し方

① 本文中で示す場合

例： □□□□ (Tobin, 1980, pp. 23-24)。  
 原口 (1978) によれば、□□□□。

② 脚注で示す場合

例1： 原口 (1978)、158 ページ。

Tobin (1980), pp. 23-24.

例2： 原口新一『日本とアジア経済圏』東洋経済新報社、1978 年、158 ページ。

Tobin, James (ed.), *Money and the Real Capital*, The University of  
 Chicago Press, 1980, pp. 23-24.

例 3：すでに言及済みの文献を再度表示する場合、以下の方法もある。

(A)直前に言及した文献の場合

例(i)：同上書（または、同上論文）、23 ページ。

例(ii)：*Ibid.*, p.115. （文献が書物の場合）

例(iii)：*Ibid.*, p.28. （文献が論文の場合）

(B)以前に言及した文献の場合

例(i)：高松浩二、前掲書（または、前掲論文）、45 ページ参照。

例(ii)：Fama, *op.cit.*, pp.12-18. （文献が書物の場合）

例(iii)：Tabuchi, *op.cit.*, p.37. （文献が論文の場合）

※ なお、例 1 の形式による場合、巻末の「参考文献」にこれら文献の完全な情報が記されていることが必要である。

### 3. 参考文献一覧（巻末掲載）の書き方

① 文献の配列順序（A または B）

A) 日本語文献と英語文献を区別し、前者を前段に、後者を後段に掲載する。日本語文献は著者名の 50 音順またはアルファベット順に掲載し、英語文献は著者のアルファベット順で掲載する。

B) 日本語文献も英語文献も区別せず、すべて著者名のアルファベット順に掲載する。

② 同一著者の文献が複数ある場合は、出版年月日の昇順または降順で掲載する。

③ 単行書と雑誌論文とを区別して掲載する方法もあり得るが、区別しないで掲載するのが一般的である。

④ 文献名・著者名等の表記

A) 単行書の場合

「著者（編者）名（刊行年）『書名』〇〇出版社。」

のように記するのが一般的である。

B) 著書の中の一章を参照した場合

「著者名（刊行年）「章名」編者名『書名』〇〇出版社、〇～〇ページ。」

のように記す。

C) 雑誌論文の場合

「執筆者名（刊行年）「論文名」『刊行物名』第〇巻第〇号、〇～〇ページ。」

のように記す。

D) 英語文献の場合

基本的には日本語文献の場合と同様である（例示を参照のこと）。ただし、単行書名および雑誌名については書名をイタリック体にする。論文名については、論文名を“ ”で括る。

⑤ 英語文献に日本語の訳書がある場合は、英語文献名等に続いて訳書の文献名等も記す。訳書文献については、（ ）で括る場合も少なくない。

⑥ 日本語文献（および中国語文献）の末尾は句点（。）で、英語文献の末尾はピリオド（.）で締める。

⑦ 参考文献リストの例

参考文献

Gordon, R. H. & B. G. Malkiel (1981). Co-operation Finance. In H. J. Aaron & J. A. Peckman, (Eds.), *How Taxes Affect Economic Behavior* (pp. 131-192). The Brookings Institution.

Hicks, J. R. (1946). *Value and Capital* (2<sup>nd</sup> ed.). Oxford University Press.

Law, B. (2020). Ideologies in language. *System Journal*, 10 (3), 213–224.

伊藤邦雄（2012）『ゼミナール現代会計入門（第9版）』日本経済新聞出版。

森田哲彌（1995）「原価主義の再検討」『企業会計』第47巻第1号、25～28ページ。

野中郁次郎（1995）「日本型イノベーションの特徴と課題」野中郁次郎・永田晃也編『日本型イノベーション・システム』白桃書房、23～28ページ。